

## 第 7 0 回 病 診 連 携 委 員 会 要 録

日 時	平成 2 7 年 1 1 月 3 0 日 ( 月 ) 午後 7 時 4 5 分
場 所	浪 速 区 医 師 会 会 議 室
出 席 者	浪 速 区 医 師 会 10 名
	南 医 師 会 2 名
	愛 染 橋 病 院 2 名
	育 和 会 記 念 病 院 2 名
	NTT 西 日 本 大 阪 病 院 1 名
	大 野 記 念 病 院 2 名
	四 天 王 寺 病 院 2 名
	千 本 病 院 1 名
	多 根 総 合 病 院 1 名
	な に わ 生 野 病 院 2 名
	日 生 病 院 1 名
	大 阪 府 1 名
	地 域 包 括 支 援 セ ン タ ー 1 名
	居 宅 介 護 支 援 事 業 者 連 絡 会 1 名
	浪 速 区 医 師 会 事 務 局 1 名

今回は大阪府救急災害医療グループより池側恭洋先生、本会の救急担当、また、大野記念病院より救急看護師に参加いただいた。

## 議 題

- 第 69 回 病 診 連 携 委 員 会 報 告 に つ い て ( 資 料 1 )  
前回委員会での議事内容の報告と確認を行った。
- 大阪府が実施している救急システム「ORION」について ( 資 料 2 )  
大阪府健康医療部保健医療室医療対策課救急・災害医療グループの池側恭洋氏より説明があった。池側先生の略歴は、H20自治医大卒、府立急性期で臨床研修後、中河内救命センターで4年在籍後、現在に至る。ORIONは大阪府の救急医療において救急搬送支援・情報収集・集計分析を担うためにシステムであり、平成25年4月より開始されている。救急たらいまわしの事例を受けて、救急医療の改善も目的としたシステムであり、救急隊員がスマートフォンのような端末を持ち、重症度の高い患者は、より高度な医療がスムーズに受けられるように考慮されている。可能な限り搬送困難症例を少なくすべく各医療機関と連携が取りやすくなっている。また、それに際し、検証する必要があったが従来の方法では検証に時間がかかり過ぎていた背景があった。ORIONを用いることによりその検証および分析がしやすくなったとのことである。来年度には大阪府内全て地域の救急隊がスマートフォンを持つ事が可能となり、より広範囲にカバーすることが可能となった。現在44万件のデータが蓄積されており、前救急搬送の9割に相当する。これは世界的にも注目されているデータベースと言える。将来的にはこれの基礎に大阪府の救急体制構築に役立てて言う予定である。
- 本会の在宅医療連携の現状について  
包括(大阪市)との連携も深めながら進行中であり、医療機関からの広報も行う。また、会員へ在宅医療等に関するアンケートを実施し、各医療機関の実施内容等の一覧を作成する予定である。
- その他  
ブルーカードの登録件数は、合計620件、浪速区内の医師より565件、他地区の医師から55件、使用状況は、のべ件数 全例で510件、浪速区482件、他地区で28件、11月1日からのカード動向27件・新規8件、更新10件、入院4件、死亡1件。  
ブルーカードの更新が遅れている状況なので注意してくださいとのこと。

次回会議予定 平成 2 8 年 1 月 2 5 日 ( 月 ) 午後 7 時 4 5 分 ~